

鳴き声をききつけたメスは方向をさぐり始める

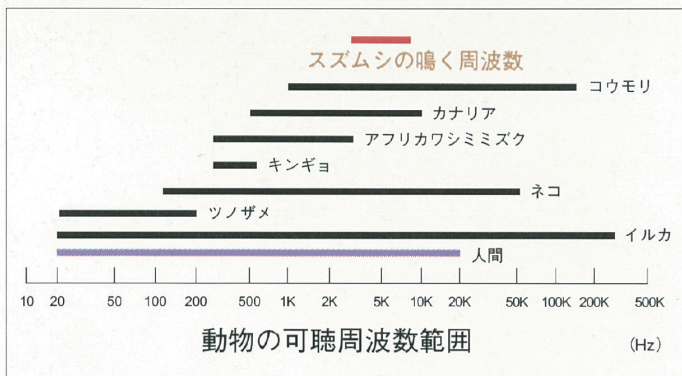


## オスの鳴き声は メスを呼ぶ合図

暗くなつて草の茂みの中で動き回るスズムシは、仲間を目で見つけることができませんが、鳴き声で自分の居場所を知らせ、仲間の居場所も知ります。  
オスがリーンリーンと鳴くのを「さえずり」といいますが、メスに自分の居場所を知らせているのです。いうならば、これはほかのオスに自分の縄張りを知らせる合図です。メスが近づいてくると、オスは「リッ、リッ、リッ」という短い鳴き声で応えます。

## 人間に聞こえる音は 二十Hzから二万Hzまで

人間が聞き取れる音の範囲を可聴音といえます。その周波数の範囲は、二十ヘルツから二十キロヘルツまでです。この可聴周波数の範囲を超える音は、超低周波数（二十ヘルツ以下の音）超音波（二十キロヘルツ付近以上）と呼んで区別しています。音圧レベルにおいても、あまり低いと聞こえず、あまり高いと耳を損傷するので、音として聞くことのできる範囲は限られてきます。このうち、実際に音楽や音声の伝達に使われている範囲となると、さらに狭くなります。他の動物の可聴周波数の範囲は、図に見られるように人間と異なっており、人間に聞こえない音を使って交信している動物も少なくありません。



## 聴きとりにくい調べ

鳴く虫が出す音の高低は、周波数によって表されます。それは虫によって大体決まっており、スズムシやコオロギなどは三〜七キロヘルツのものが多くあります。ウマオイの仲間は、十〜十三キロヘルツとかなり高い周波数で鳴き、高齢者の耳には聴き取りにくくなります。

### ● 鳴く虫とは

鳴く虫は、昆虫綱・直翅目の中のキリギリス科とコオロギ科のどちらかの仲間です。声を出すものにかぎられません。

これらの仲間のオスは、左右の前翅を擦り合わせて音を出します。同じ直翅目のイナゴやバッタにも鳴く種類がありますが、鳴く虫とはいわず、鳴く方法も異なります。

### ● 鳴く虫の種類

日本に生息している鳴く虫の種類は、キリギリス科もコオロギ科も六十種ほどですが、中には、外国産の帰化した種（例えば、アオマツムシ）もいます。

### ● 仙台中内及び近郊で確認されている鳴く虫

キリギリス科  
コオロギ科  
ウマオイ、ヤブキリ、キリギリス、ヒメギス、クサキリ、クビキリギリス、ホソクビツユムシ、ツユムシ、アシグロツユムシ、セシツユムシ、ササキリ（分母ドウマ類）  
コオロギ科  
エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、オカメコオロギ、マダラスズ、ヒメスズ、アオマツムシ、カンタン、マツムシ、スズムシ